地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その62

文：田崎 敬修

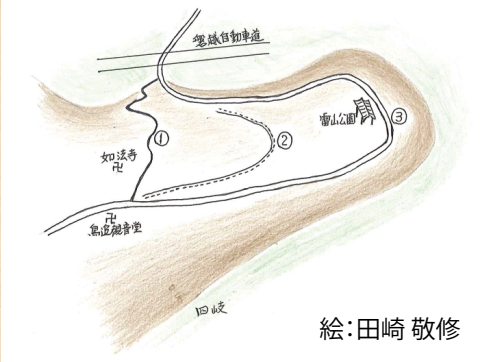
鳥追観音と参道の変遷

鳥追観音には次のような話が伝わっています。天平８年（736）、行基菩薩が鳥獣害に苦しむ芹沼の貧しい老夫婦に一夜の宿のお礼に１寸８分（約６㎝）の正観音をお授けになり、この観音に鳴子を繋いで田んぼの畔に置きなさいと言って出立されました。言われた通りにすると鳥獣が来ると鳴子が鳴って鳥獣が寄りつかなくなったのです。やがて老夫婦が亡くなると観音は御身ヶ淵に飛び込まれたそうです。大同２年（807）、徳一大師が西方浄土の寺を建立しようと阿賀川の御身ヶ淵にさしかかると、あの正観音が水中より大師の御手の上に飛び移られたのです。大師は紫雲たなびく当地を観音堂建立の場と定め、正観音をお祀りしたそうです。鳥獣害を無くし貧困から救う「鳥追観音」と尊称された正観音は古くから多くの有力者の厚い信仰を集め、数多くの寄進物などが現在、国・県や町の重要文化財として指定されています。観音堂は東西に遥拝口、三方開き、四方に上がり口のある独特の構造を持つ日本唯一の観音堂です。

如法寺観音堂（鳥追観音堂）

如法寺への参道は時代とともに３回変わりました。

最も古い道（左図①）は、磐越自動車道の陸橋下を過ぎてすぐに右下方向に進むと登り道があります。この道が最短の道で、県道を横断して観音堂仁王門前に出ます。明治 37 年（1904）頃までは唯一の参道でした。



絵：田崎 敬修

続いて、明治 38 年（1905）に凶作の救済事業として人力車や馬車が上がれる程度の道が先述参道の東側を大きく迂回するような形で作られました（左図②）。この道は大久保街道と呼ばれ、徐々に整備され大正８年（1919）に一等里道に、大正 13 年（1924）には県道となりました。県道大久保街道と停車場道路（原町市街から野沢停車場に至る道）は県道大久保・野沢停車場線となり昭和２年（1927）に自動車道に編入されたのです。

最後に、現在の雷山公園を大きく迂回する道路（左図③）ができたのは昭和５年（1930）頃であったと推測されます。その後、昭和 13 ～ 18 年頃（1938 ～ 1943）には、会津乗合自動車の定期バスが野沢駅から大山祇神社まで運行されるようになりました。

今月の表紙

今月は、特集でも取り上げた健康づくり特別講演会より。講演会の最後に会場の皆さんが「さすけねぇわ（輪）」ポーズでパシャリ。会場全体がひとつになった瞬間を撮ることができました。

（2～5ページに関連記事）

編集後記

今回取り上げた健康づくり講演会の開演前の会場では、とある映像が流されていました。それは、町民の皆さんが「さすけねぇわ（輪）」を合言葉に、それぞれの健康づくりに取り組んでいる姿。広報紙でも、令和２年７月号の健康増進計画（第２期）の特集をはじめ、健康づくりに取り組んでいる皆さんを多く紹介しています。今回の映像を見て、「さすけねぇわ（輪）の健康づくり」が少しずつ広がっていることを実感し、これからの町の将来像がまた楽しみになりました。（秦）

にしあいづ
広報にしあいづ №764　令和４年６月号
発行／福島県西会津町　編集／企画情報課　TEL 0241-45-2211（代表）
ホームページ　https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/
PRINTED WITH SOY INK
この広報紙は、環境に優しい大豆油インキを使用しています。